

第1章 将来ビジョン

P.9

■第1項 将来ビジョン（P.10）

令和12年（2030年）－東海村のありたい姿・あるべき姿

「輝く SONZA1 つながる TOKA1」

～共に生き 共に育つ しなやかで活力あるまち～

■第2項 村が秘める可能性（P.12）

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 1 誇れる「人財」がいるまち | 4 最先端の科学技術を活用した産業振興ができるまち |
| 2 子育てや教育環境が整っているまち | 5 持続可能な誇れる農業があるまち |
| 3 歴史、文化、自然と人々が調和するまち | 6 多様な可能性を秘めたまち東海村 |

■第3項 村を取り巻く状況（P.16）

- | | |
|-------------|------------------------------|
| 1 少子高齢化の進展 | 4 SDGs（持続可能な開発目標）達成に向けた国内の動き |
| 2 防災意識の高まり | 5 Society5.0の推進 |
| 3 グローバル化の進展 | |

■第4項 東海村人口ビジョン（P.20）

～本村の人口の将来展望～

令和22年～27年（2040年～2045年）の
総人口約36,000人

- (1) 現在の合計特殊出生率（1.6程度）及び年間出生数（約300人）を維持。
(2) 転入が転出を上回る社会増の状況（年50人・30世帯程度）を生み出す。

■第5項 都市計画マスタープラン（P.22）

将来ビジョンの実現に向け、将来あるべき都市像やまちづくりの基本的な方向を示します。

まちづくりの目標(1) 安全・快適で優しさを大切にしたいまち

まちづくりの目標(2) 魅力と活力のあるまち

まちづくりの目標(3) 環境と共生したうるおいのあるまち

■第6項 村のこれまでの取組と課題（P.25）

第5次総合計画基本理念：村民の叡智が生きるまちづくり～今と未来を生きる全ての命あるもののために～

第5次総合計画後期基本計画においては、まちづくり、防災、福祉、教育、産業振興、環境・基盤の6つの「分野別将来像」を設定し、取組を進めました。村政全般にわたり、村民との「対話」と「参画」を意識し、村民の叡智を発揮できる仕組みづくりが一定の成果を得たと同時に、各分野に共通する課題が明らかとなりました。

<各分野に共通する課題>

「さらなる『人づくり』が急務である」ということ。

自治、福祉、教育、環境、農業等、さまざまな分野で「自分たちの後を引き継いでくれる次世代の担い手が必要」「地域の核となる人財が欲しい」という声が聞かれている。

さらに…

<「人づくり」以外の世代・分野を超えた横断的課題>

- 世代を超えた「健康づくり」の推進
- ハード・ソフト両面を捉えた「公共交通」の展開
- 防災施策・まちづくり施策の双方を加味した基盤整備

<新たな計画に求められる事項>

- 村民と行政、村民同士が多様なネットワークでつながり、連携・情報共有しながら、複雑・多様化する地域の課題・ニーズに対応する必要。
- さらなる人づくりやネットワーク化に向け、より村政の透明性を高める。
- 村民意見をさらに反映できる仕組み・機会の周知や創出を図る。

第6次総合計画では、新たな発想と「つながる」ことにより新しい価値と可能性を見出し、これまで以上に各分野が連携して施策を展開していく。

第2章 計画体系

P.33

○各分野が連携して施策を展開していくため、分野横断的なつながりを重視しながら取組を推進する計画体系とし、今後5年間で必要となる取組を重点的に示します。

○「しなやかで活力あるまち」へ成長するために、第5次総合計画で明らかとなった課題でもある、「人づくり」を中心として、以下のような取組を展開します。

- ・新たな人財育成
- ・地域や各世代、村内団体などで活躍する人財の活動支援
- ・人財のネットワーク化による、新しい価値を見出す取組
- ・上記をコーディネートできる村民や村職員の育成 など

○「人づくり」を進める上で土台となる「暮らしの基盤整備」と「まちの魅力向上」についても取組の柱とし、この3本の柱の相互連携により、取組を進めます。

○「暮らしの基盤」が大地にしっかりと根を張り、「まちの魅力、村への想い」という水や養分を加えることで、行政と村民が協力し合いながら、「人づくり」という大樹を、10年後の大空に向け、育てていきます。



第3章 計画を推進するための基本姿勢

P.51

行政における計画推進の視点や姿勢について、5つの基本姿勢を掲げます。

- 1 共創・協創によるまちづくりの推進
- 2 誰一人取り残さない政策展開
- 3 未来志向の政策展開（バックカスティング）
- 4 新しい「役場」への転換
- 5 最先端技術の活用（Society5.0時代への対応）

第4章 東海村まち・ひと・しごと創生総合戦略【第2期】

P.55

人口ビジョンに掲げた将来展望を目指し、まち・ひと・しごと創生に関わる基本目標と施策の展開を定めます。

<3つの視点>

- (1) 分野や施策に捉われない**横断的な枠組み**づくり
- (2) **SDGs（持続可能な開発目標）**の達成に向けたまちづくり
- (3) **Society5.0**の実現に向けた未来技術の活用

<3つの基本目標>

- (1) 多様な世代から選ばれるまちづくりの推進
- (2) 若い世代が安心して子育てできるまちづくりの推進
- (3) 誰もが生き生きと働き、活躍できるまちづくりの推進

<重点的に取り組む5つの分野横断的ミッション>

【まち】

- 自家用車がなくても**「移動（生活）できる」**まちづくり
- 健康づくりとスポーツがリンクする**「元気な」**まちづくり

【ひと】

- 地域の**「未来を担う人材」**の掘り起こしと育成

【しごと】

- 産学官の連携による**「新たな科学技術を活かした」**新産業の創出と働く場の確保
- 「子育てと仕事の両立」**を支える仕組みづくり

第5章 新しい「役場」への転換

P.65

新たな総合計画のスタートに当たっては、行政内部の変革が不可欠であると同時に、事業効果の最大化・最適化を図るための取組を不断に推進し、行政力の底上げを図る、「役場」が“変わる”チャンスでもあります。

変わる! I 新時代の職員育成へのチャレンジ

- 取組1 変化をおそれず挑戦し続ける人財への変革
- 取組2 多様な主体との連携

変わる! II 未来に立ち向かう財政経営へのチャレンジ

- 取組1 人口減少社会に適應した財政構造への転換
- 取組2 公共ファシリティマネジメントの推進